

1億人の未来図

日本の人口は2056年に1億人を割ります。企業の商品やサービス、行政など、私たちの暮らしのあらゆる分野に訪れる変化の未来図と処方箋を探ります

お墓もう守れない「デステック」で弔い

家の墓を解体し撤去する「墓じまい」が加速している。墓じまいを含む改葬は2023年度に16万6886件。死亡数がピークを迎える40年度は約30万基が消える可能性がある。少子化で墓を守り継ぐのが難しくなり、人工知能(AI)などを使った「Death(デス)テック」が弔いのカタチを変えようとしている。

厚生労働省の衛生行政報告例によると、墓の移転や墓じまいに必要な改葬の許可件数は23年度、過去最多の16万6千件で10年で倍増した。国立社会保障・人口問題研究所は、国内の死亡数は40年に16万5千人となりピークを迎えると推計する。墓じまいの増加ペースが続けば、40年度には1年間約30万基の墓が姿を消す計算だ。

背景には社会構造の変化がある。6月公表の人口動態統計で、24年に生まれた日本人の子ども数は68万6061人と、初め

死亡数40年にピーク

5月下旬、新緑の木々に覆われた道を車で進んだ。「お墓の墓」があった。三重県熊野市にある墓石の安置所だ。墓じまいの後、墓石の一番上に置かれる卒石(さおし)を引き取って永代供養する。

並ぶ墓石は2万基以上。「令和」の文字が刻まれた新しい墓石もある。運営するのは墓石解体業の美匠(奈良県置賜市)。

中西あさみ社長は「家族がおらず、泣く泣く墓じまいする人は多い。不安を和らげるため安置所を設けると徐々に依頼が舞い込むようになった」と語る。

墓石は定期的に清掃し、経王寺(熊野市)の釜淵雄行住職が春と秋に合同供養法要を行う。

月に何度も、大型トラックが数百本の卒石を運び込む光景は、墓じまいの急増ぶりを映す。



2万基以上が並ぶ経王寺の墓石安置所(三重県熊野市) 一部画像処理しています

「お墓のみとり」は生前の契約に基づき、依頼者の死後、納骨し、一定期間、墓で弔った後に墓じまいする。

契約件数はまだ少ないが、石材店や司法書士事務所など、石材店が代理店契約を結んでいる。大橋理宏社長は「自分の代で先祖の墓をなくすことに後めたさや寂しさを感じる人は多い。墓を相続した子世代から相談を受けることもある」と話す。

墓じまいが進み、故人の冥福を祈る場所が失われている中で、注目されているのが「Death(デステック)」。AIなどを活用

葬送の文化、転換期に

シニア生活文化研究所 小谷 みどり代表理事

家族の遺体を火葬し、遺骨を家の墓に納めるという弔いの歴史は実はあまり長くない。かつて日本は土葬が主流で、火葬率が90%を超えたのは昭和に入ってからだ。

墓石を建てるお墓が造られるようになったのも江戸中期以降で、大半は個人が夫婦の墓だった。戦後、火葬が急速に普及し、複数の遺骨を1カ所に安置できるようになって「〇〇家の墓」が全



用した新たな弔いのカタチだ。ニューシア(東京・中央)は24年12月、生成AIが再現した故人と対話できるサービスを始めた。故人の写真や動画、音声などをAIに習させ、表情や声などがそっくりな「AI故人」の映像をパソコンやスマホ上に再現する。契約者が故人の経歴や趣味、特別思い出などをまとめた文章(500字上限)を登録すると、AIがそれを学習し、対話できるという。

中国・韓国で利用増

に10件の契約がある。柏リン宏社長は「中国や韓国ではすでに類似サービスの利用が盛んだ。生きてる間に自身の声やメッセージを学習させ、家族に『自分のような存在』を残すこともできる」と説明。「故人と再び言葉を交わすことで悲しみが癒える部分はあるはず」と語る。

冠婚葬祭業のアルファクラブ武蔵野(さいたま市)は24年9月「メタバース霊園 風の霊」を立ち上げた。スマホながら仮想現実(VR)空間にある霊園にアクセスし、アバター(分身)を動かす。霊園内には故人

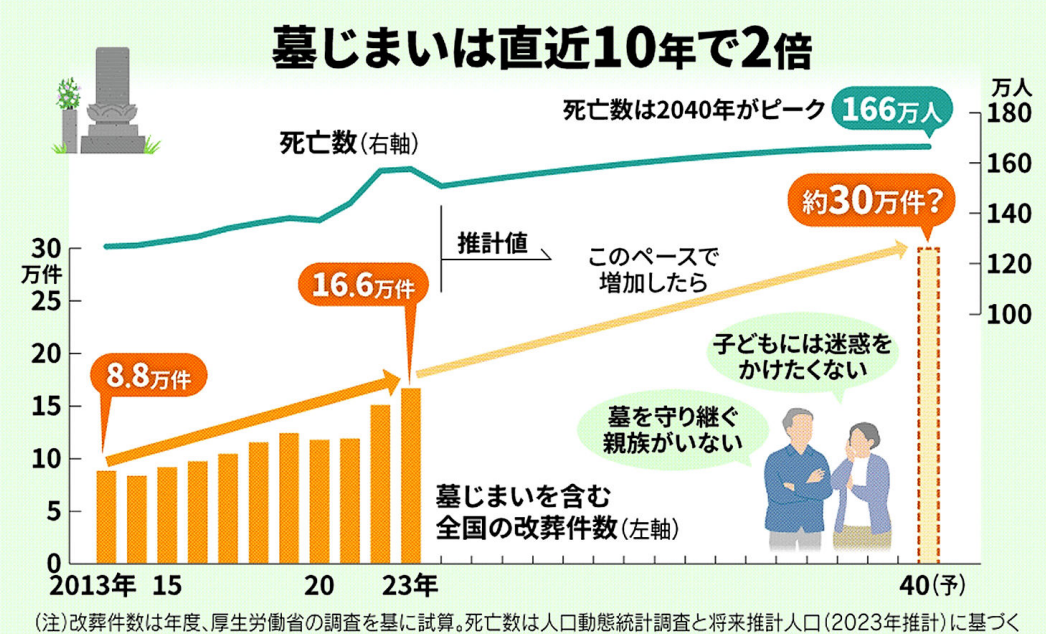
国に広がった。社会の変化に合わせて弔い方が変わるのは自然なこと。お彼岸に家族でお墓参りをし、家の墓を守り継ぐ習慣は次第に変わっていくだろう。

IT技術を活用した弔いは中国や韓国、台湾などアジアの隣国・地域が先行している。中国ではAI故人追悼サービスが利用者を伸ばしており、新型コロナウイルス禍を経て、アジア各国ではオンライン墓参も普及した。人口密度が高く、国土が限られる台湾では各自治体が海洋散骨や樹木葬を推奨している。

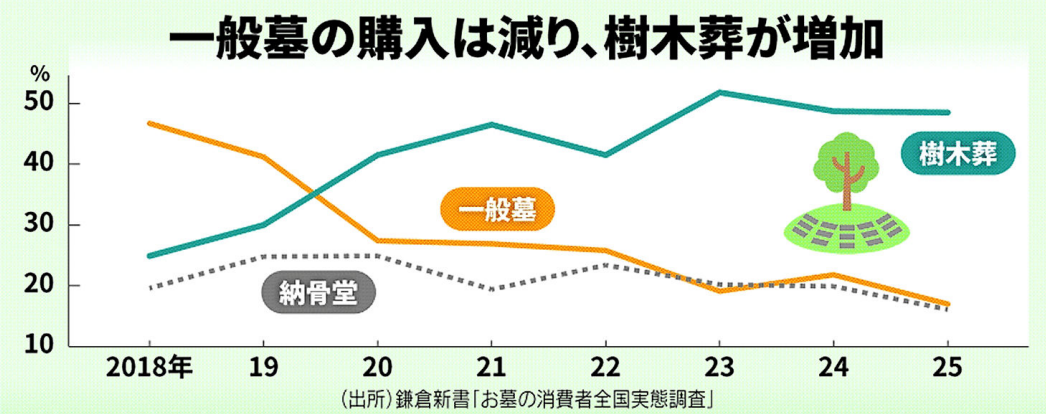
日本も転換期にある。血縁を超えて生前の仲間と同じ合葬墓に入る「墓友」が増え、「誰と同じ墓に入るか」に変化が起きている。故人の遺骨をパウダー状にしてダイヤモンドやペンダントに加えて保管する「手元供養」も広がる。葬儀関連業界は従来のビジネスモデルが通用しなくなり、大胆な変革を求められる時代に入った。

時代の変わり目は必ずしも生じる。国や自治体は無縁墓の増加や各地で相次ぐ墓石の不法投棄の問題に真剣に取り組む必要がある。

AIで故人と対話、メタバース霊園も



(注) 改葬件数は年度、厚生労働省の調査を基に試算。死亡数は人口動態統計調査と将来推計人口(2023年推計)に基づく



新たな弔いのカタチ

AI故人追悼

故人の写真や動画、音声のデータを生成AIに学習させ、パソコンやスマホ上で故人のしぐさや声を再現する。故人と対話できるサービスも

ニューシア提供

メタバース霊園

ネット上の仮想空間(メタバース)に構築された霊園。アバター(分身)を使って故人の追悼の場に参加する。弔問客同士の会話も可能

アルファクラブ武蔵野提供